

舞踊のコミュニケーションに関する研究・〈評価尺度の構造的検討〉

石 黒 節 子
明 尾 真 弓
八 木 真 ありさ

目的：本研究は、新聞評にとりあげられたモダンダンスを対象に、それを評価する言葉を収集し、分析を通して構造化をこころみたものである。又、得られた結果と、先行研究にいくつかみられる記号理解の構造を探るためのオスグッドの意味微分法による結果との比較をこころみた。

方法：下記に掲載されたモダンダンスリサイクルに関する批評文32件を対象に下記の手順で評価語を抽出し、分類した。

新聞評

オンステージ新聞 昭和59年1月～12月(12件)。

朝日、読売、毎日新聞 昭和59、60年度(20件)。

評価語抽出と分類の手順

1. 批評文を全文カードに書き写す。
2. 評価語を含んでいる文を抜き出し、以下の作業を行う。
 - a 抽出した文の中核となる評価語を探し、当該評価語の分類項目を決定する。

b 中核となる評価語を導きだし、又その評価を説明、構成している副次的評価語を調べる。

c 抽出文を構成する評価語を構造化する。

結果：抽出された評価語を解説、印象、意見に分け、総評価語(636語)に対する百分率を示したものが図1である。ここでいう印象とは外来の刺激によって我々の「内」に生じる効果とし、解説や評価とは区別した。この図から印象の項目がいずれも過半数を示していることが解る。

次に印象の項目に分類された評価語のうち2つ以上の批評文に重複してあらわれた語を上位50語選び出し、批評文32件を一方に、他方に選び出された評価語50語をとり、パタン分類の数量化Ⅲ類を適用し、評価語の分類をこころみた。結果は図2に示す。このことから、印象を構成する要因に力動性、新奇性、構成、具象、抽象性などがあるということが認められた。

モダンダンスを対象とする意味微分法による先行研究の結果と比較すると、印象を構成する要因は、力動性、新奇性、魅力(美的要素)などにおいて共通性がみられる。また、意味微分法においては、情緒性の要因が必ず見い出されるのであるが、批評文においては、構成法、具象性、抽象性などの踊りの手法に関する要因が大きく占めているといえる。批評文における評価語には、重複しない形容詞が多くみられ、モダンダンス評価は力動、新奇、魅力性などを軸としながら多様さを有しているといえる。

評価語分類項目

作品	作品	踊り	振付	構成	作風	展開	意図	様式	内容	テーマ	題材	筋
	物語	要素	感じ	印象	イメージ	ふん囲気	アイディア	フィーリング	発想	描写		
	創作	役	群舞	デュエット	ソロ	空間	舞台	演技	姿勢	演出	場面	公演
動き	動き	表現	振り	身振り	マイム	テクニック	手法	技術	表情	コントラスト		
	ポーズ	パターン	演技									
他	装置	美術	小道具	背景	照明	音楽	衣裳	ダンサー	身体	観客		

評価語分析の枠組

分類 項目	I 解説	II 印象			III 意見	
		印象	a 比ゆ	b 隠ゆ	c 評価	x その作品の

図1 評価語の出現率

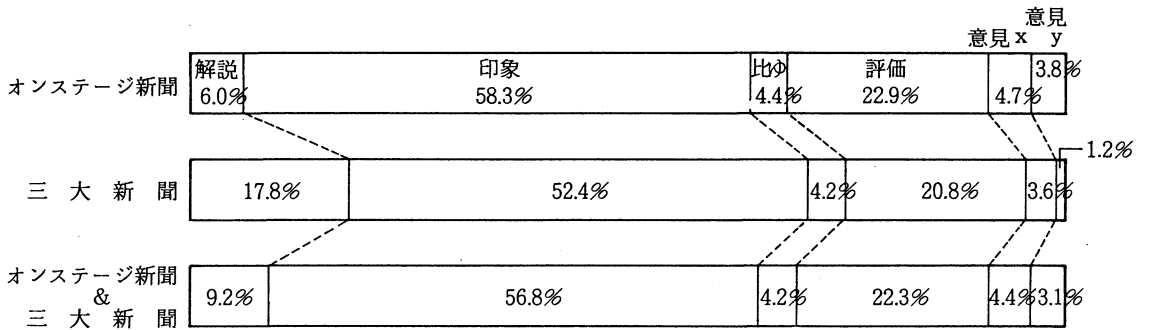


図2 印象の構成要因 (批評文)

